

話題あれこれ

福祉とは・・・

厚木市社会福祉大会

11月8日(土)、まちなかが大道芸でにぎわう中、総合福祉センターで『第45回厚木市社会福祉大会』が開かれました。社会福祉に貢献した団体や個人などへの市長・社会福祉協議会会長表彰と感謝状の贈呈がありました。

その後は、神奈川県福祉作文コンクールの厚木市代表2作品を本人が朗読します。

発達に遅れがあり、喋ることのできない5歳の弟との関わり、弟のいやなところ・いいところを挙げ、「姉として、ずっといっしょにいてあげたい」と書いた小学4年生の女の子。

小学6年生の男の子は、障害がある方が上手にできないことをやってあげることが福祉だと思っていたそうです。しかし、障害者施設でのボランティア体験により「障害をもった方々が、自分でできることが増えて、一人ひとりが暮らしやすくなるように手助けしたり、工夫することが福

祉ではないか」と感じたことを書きました。そして「もっと福祉について調べてみたい」とむずびました。

(追記)

社会福祉大会の来賓祝辞の中で、民主

党の衆議院議員が「消費税が増税される」とかなんとか、まるで増税が決まった様に発言しました。本人はそうしたいのかもしれませんが、まだ決まってもいないことを、公式の場で決まったように言うのは疑問です。

以前、民主党某議員が、本会議で「決まりはあるでしょうが、そこを何とか」と、発言したことがありました。決まりを決める場にいる議員の発言とは思えないことです。

大山 三態



市内各地から見える大山は姿を変えます。市内某所の定点カメラで撮影。

上：霧の深い日、厚木のマチュピチュか武田城か...



中：晴天の日、見晴らし絶好。



下：曇天の日、大山が消えた。

書籍紹介

90歳の記念に

「たそがれ詩集」やなせたかし

やなせたかし氏は、ペン名「アンパンマン」の作者。「手のひらを太陽に」の作詞でも有名です。やなせ氏は昨年10月13日、94歳で亡くなりましたが、90歳になった記念に出版したのが本書です。あとがきに次のようにあります。



「たそがれ詩集」
かまくら春秋社

人生の最後が近づいてくると

身体は不自由になったが
精神は束縛されなくなった

この詩集とも

いえないヘンな本は

我がまま勝手気まま

本人の目が悪くなったので

一目瞭然拡大鏡不要の大活字

内容も口からでまかせ

たわごとにすぎない

今さら望むことは何もない

こんな詩集

読む人はいないと思うが

かまくら春秋社が

九十歳の記念として

出版してくれたので

うれしい、ありがとう

詩と絵が絶妙にマッチ。お見せできないのが残念！ 詩をそのまま紹介するのが一番。では、大活字で。

老後のたのしみ

足が弱くて すぐころぶ

耳は遠いし 眼はかすむ

まいにちあふない つなわたり

決死の冒険 サスペンス

これぞ 老後の おたのしみ

花咲く峠

ふりむくことはしなかった

ただひたむきに歩いたが

いささか疲れてひと休み

ここはどこかと見たせば

老花峠のくだり坂

旅の終わりが近づいた

可憐に咲いた 山桜

散るには 惜しい

風情だなあ